

Information 会員便り

事務局からのお知らせ

●WSFジャパンのページでご報告したように、8月26日の総会でWSFジャパンの規約が決まりました。会員の皆さんにはすでにコピーをお送りしましたが、その中で会員の種類に今までの個人会員、団体会員に加え、学生会員、賛助会員が増えました。学生会員は入会金3千円、年会費5千円、賛助会員は入会金5万円、会費一口10万円(年間何口でも結構です)。学生の皆さんには入会しやすく、また企業の方にはもっと女性スポーツへの理解を深めていただきたいと思い、新しい会員の種類を加えました。

お知り合いの方にも声をかけていただき、みんなでWSFジャパンをより大きなものにしていきましょう。

●昨年の11月に初めて開催された「女性スポーツ医学研究会」。その第2回研究会が、来たる12月3日(出)、午後2時より開かれます。

第1回の研究会では「女性スポーツ外傷と障害」「月経とスポーツ」「妊婦のスポーツ」など、各分野の専門医師による講演が主でしたが、今回は一般からも演題を募集するなど、女性スポーツ医学のより広い普及に努めています。会場は明治製菓本社ビル(東京都中

央区京橋2-4-16)6階の大講堂です。「女性スポーツ医学研究会」についてさらに詳しくお知りになりたい方は、事務局までお問い合わせ下さい。

●10月12日に国立京都国際会館で行われた日本体力医学会大会の記念行事の一つ、紅白公開討論会「いま、ジョギングかウォーキングか」は、学会員のほか、地元の人たちも参加し、壇上のパネリストとフロアの聴衆が活発にやりとりする楽しいシンポジウムとなりました。ジョギングとウォーキングは、どちらの方がいいという結論が出るものではありませんが、従来は専門的に細分化されたテーマを多く扱っている学会が、このように一般的な問題に取り組み、多くの市民の関心を集めたことは、大いに評価されてよいでしょう。(三ツ谷)

●今年の日本体力医学会大会での一般口演で、女性スポーツに関するものには、次のようなものがありました。「女子運動部員の月経異常」「女子体操選手の精神身体健康度と心理特性」「中年主婦の体力特性」など。

●青春をスポーツに賭け、オリンピックへの夢を追った女たちのドキュメント・ひたむきに、前向きに、ギリギリまでチャレンジし、完全燃焼したあと、彼女たちはどう変身したか「わたし流、プレッシャー物語・オリ

ンピックの女たちの素敵な生き方」(吉廣紀代子著、日本文化出版刊、1300円)はこんな文章から始まります。

先頃、盛況のうちに無事閉幕したソウル五輪では、これまで以上に女性の活躍が目まざましました。しかし、五輪を後にした彼女たちはどこで、何をしているのでしょうか。報知新聞運動部記者として多くのオリンピック選手に接した経験もある著者の吉廣さんは、第一線を退いた彼女たちのその後に関心を持ち続けていました。

今回、戦後に開催された夏季、冬季五輪に出場した日本女子選手244人(カルガリーとソウルを除く)にアンケートを依頼し、その中の18人にインタビューをする機会を得て、その内容をまとめたものがこの本というわけです。限らないプレッシャーと闘ってきた選手が普通の女に戻り、恋愛、仕事、家事、子育てに日々を逃している姿は、きっとあなたにも何かを感じさせてくれるのではないのでしょうか。

新会員紹介

▽三宅基子(東京・渋谷区)▽宮本慶子(神奈川・横浜市)▽柏谷照美(東京・千代田区)

●WSFジャパンは皆さんの会費によって運営されています。会費未納の方、至急ご入金下さい。

WSF Japanとは...

WSFジャパン(女性スポーツ財団日本支部)は、米国のWSFをお手本とし、日本の女性スポーツの発展、振興を目指し昭和56年12月に旗揚げされた非営利の団体です。会員は選手、指導者をはじめ、一般のスポーツ愛好者、研究者、スポーツビジネスにかかわる企業関係者など、男女を問わずさまざまな分野にわたっています。

運営は会員の会費を財政基盤とし、ボランティア活動によって支えられています。

入会金 年会費

学生会員...3千円 5千円
個人会員...3千円 8千円
団体会員...5千円 1万5千円
賛助会員...5万円 10万円(一口)

WSF Japan News

第16号(季刊II秋季号)
発行 昭和63年11月
発行人 三ツ谷洋子
編集 SPOR TS 21
発行所 WSF Japan
〒151 東京都渋谷区西原

3-36-23-202
03(467) 5211